

24	みよし	みよし市立三好丘中学校	ナガヤマ イクミ	
			名前	長山 郁美
分科会番号	19	分科会名 読書・学校図書館		

文章や図書資料に親しみ、自らの考え方や生き方を見つめ直す生徒の育成
－学校図書館を利活用した3年国語科「学んで時に之を習ふ－『論語』から」の実践を通して－
みよし市立三好丘中学校 長山 郁美

1 主題設定の理由

本学年の生徒は、明るく素直で、元気のある生徒が多い。しかし一方で、授業の場になると、自分の意見をもっていても恥ずかしくて自ら発言することができない生徒が多い。相手にどう思われるのか、自分の意見は正しいのか、とためらっている姿をよく目にする。挨拶、掃除、部活動など、普段の生徒の輝く姿を知っている分、一人一人がもっと自分に自信をもってほしいと強く感じた。そこで、これまでの自分の考え方や生き方を見つめ直し、よりよく生きるためのきっかけを見つけてほしい。そうすれば、もう少しだけ踏ん張って何かに挑戦したり、弱い心に流されないように自分を戒めたりして、自分の人生をよりよく生きていくことができるのではないかと考えた。

本実践で扱う『論語』には、孔子によって、人間の生き方についての鋭い観察や深い思索が込められているため、自分の考え方や生き方を見つめ直すきっかけとなる言葉として最適だろうと考えた。

そこで、本実践では、生徒同士の対話から孔子が『論語』に込めた思いを探究する。そして、「こういうことある？」と再び生徒同士で対話することによって、自分の生活とのつながりを深く感じられるように授業を展開する。また、『論語』に関連する様々な文章や図書資料に触れることで、これまでの自分の考え方や生き方を見つめ直し、よりよく生きるための「心のよりどころとなる言葉」を見つけてほしい。それを糧に困難なことに直面しても、しなやかな心で前を向いて生きていける生徒を育てたいと考えた。

そのなかで、本校の学校図書館を、学習・情報センターとして位置づけ、単元を通して利活用する。本校図書館は、令和5年度から図書ボランティアが入り始めたことから、読書センターとして機能し始めている。さらに、学習・情報センターとしての機能を向上させるために、図書館で学ぶ環境を意図的につくっていく。

2 めざす子ども像

- ・『論語』の中で語られた孔子の言葉に着目し、孔子の考え方や生き方を捉え、読み深めることが出来る生徒
- ・『論語』に関するさまざまな文章や図書資料に親しみ、孔子や『論語』について進んで調べ学習をし、自分の考え方や生き方を見つめ直し、よりよく生きるための指針を見出すことができる生徒

3 研究の構想

(1) 研究の仮説

① 仮説1

生徒が心に残った言葉を見つけ、その言葉から考えたことや自分の生活とのつながりを感じたことについて聴き合うことで、文章の理解度に関係なく、自分の意見をもつことができ、聴き合い活動を活発にさせながら孔子の言葉を読み深めることができるだろう

② 仮説2

魅力的な図書資料と学習用タブレットを活用して、孔子の『論語』の中から「心のよりどころとなる言葉」を探すことで、自分の考え方や生き方を見つめ直し、よりよく生きるための指針とすることができるだろう。

(2) 研究の手立て

① 仮説1に対する手立て

ア 自分の意見をもつために、心に残った言葉に傍線を引いたのちに自分の意見を考えさせる。

イ さまざまな視点からの解釈の仕方を得るために、心に残った言葉を聴き合い、お互いの考えを共有させながら、自分たちの生活とのつながりを感じさせる。

② 仮説2に対する手立て

ウ 授業で学んだことを確かめ、広げ、深めるために、『論語』に関連する図書資料を習熟度に合わせて提示したり、学習用タブレットで調べ学習をさせたりする。

エ 『論語』の言葉と照らし合わせながら過去の自分や現在の自分を振り返るために、友達と熟考したり、対話したりするなど必要に応じて学習する形態をとる。

(3) 抽出生徒の実態

2名の生徒を抽出生徒として、その変容を追うことで実践の成果としてみていく。

生徒Aは、学習には意欲的だが、どの教科も基礎的な知識が不足していて、普段は授業についていくのが困難である。仮説1にかかわって、まずは、生徒Aが言葉を根拠に自分の意見をもつことを目指す。そのうえで自分の意見と仲間の意見を比べながら新しい視点を知り、さらに自分の考えを深めていく姿を期待したい。

生徒Bは、国語科だけでなくどの教科においても学習意欲が高く、言葉に寄り添って考え、それを友達と聴き合って新しい視点を得ながら作品について考えることもできる。しかし自分に自信がなく、発言をためらったり、言葉の意味の捉えが浅かったりして、自分流の読み取りに陥ってしまうこともある。そして、間違えてしまったと思うと深く落ち込む。仮説2にかかわって、生徒Bは、言葉の正しい意味を捉えたうえで、自分の考えを形成し、自信をもって自分の意見を発信し、自分のよさを認める姿を期待したい。

そして、生徒A・Bともに、単元を通して『論語』を読み込んでいくことで、自分の考え方や生き方を見つめ直し、どのように生きていきたいか考えるきっかけとしていきたい。

(4) 研究の方法

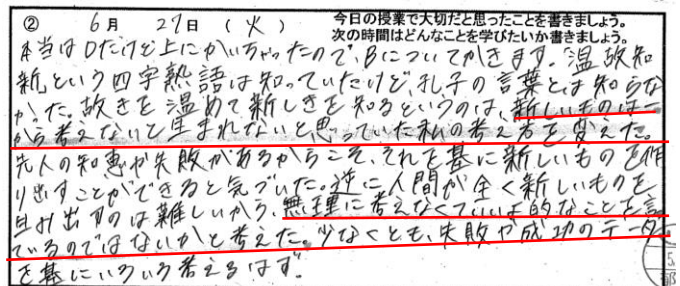
以下のように単元を構想し、授業を進めた。教科書の『論語』を学ぶ際は各教室で行い、自分の心のよりどころとなる言葉を探す調べ学習は本校図書館で授業を行った。

- ・『論語』と孔子の基本的な知識を学ぶ。
- ・『論語』の句を読み味わう。
- ・「心のよりどころとなる言葉」を『論語』の中から見つける。
- ・「心のよりどころとなる言葉」を紹介し合う。

4 実践

(1) 『論語』の読み取り【手立てア・イ】

教科書に載っている三つの章句を覚えるくらい何度も音読した。さらに、この三つの中から最も心に残った句を選び、孔子が伝えたかった思いを考える上で心に残った言葉を見つけた。その意見をお互いに聴き合った。自分の生活とつなげて考えながら、それぞれの章句の孔子の意図に迫っていった。すると生徒Bの振り返りには、『論語』の言葉から、自分の人生観を変え



<資料1 生徒Bの第二時の振り返り>

る新たな視点を生み出していた。(資料1)早速、自分を見つめ直そうとしている様子が伺える。一方生徒Aは、自分の生活につなげて「これからの人生全力で楽しみたい」と振り返った。前時の「むずかしかった」の一言から、自分の考えを生み出す活動や友達との聴き合いを通して、『論語』の内容を理解し始めるだけでなく、自分の生き方ともつなげて考えることを始めた。(資料2)

最後の章句「学而時習之…」を学級全体で読み味わった。孔子が伝えたかった思いを読み取るために、心に残った言葉に傍線を引き、自分が考えたことをノートに書く時間をとった。「人不知」「不愠」「君子」など、短い言葉からイメージを膨らませ、孔子が伝えたかったこととして自分が考えたことをお互いに聴き合った。そのうえで、自分の生活とつなげて考えたことを書かせた。グループでお互いの意見を共有する時間をとると、積極的にお互いの意見を聴き合う姿が見られた。はじめは、考えてもなかなか自分の生活とのつながりを感じられない生徒も少なくなかったが、生徒同士で対話することで、『論語』がより身近な言葉となっている様子だった。

生徒Bは、様々な章句を通じて、人間の生き方について考えることができた。孔子の思いは生徒Bの日々ある悩み事とリンクする部分も多かったのだろう。だからこそ、孔子の考え方に学ぶところがあったのだと思う。(資料3)

生徒Aは、最初に論語を読んだとき、振り返りには「むずかしかった」とだけ書いてあった。しかし、ペアやグループの生徒と聴き合うことで、『論語』の言葉について、正しく読み取ることができた。普段は、教科書の内容を捉えることが精一杯だが、みんなと「普段の生活でこんなことある？」と聴き合いながら、状況や伝えたいことを考えられたからこそ、生徒Aにも理解できる部分が多かったのだろう。読み取りの時間の最後に振り返ると、「道を楽しむことが大切ということから、自分で道を切りひらいていきたい」と『論語』をふまえて自分の人生について考えた。(資料4)

(2)『論語』に関する資料集め【手立てウ】

『論語』を生徒が学ぶにあたって、本校図書館に『論語』に関する本がどれくらいあるのかを探してみた。すると3冊のみで、難易度も高く、授業で活用するのは難しいものだった。そこで、まず今年度の予算から『論語』に関する資料を購入することを考えた。しかし、予算の配分はごくわずかであった。そこで、図書資料の精選・廃棄を進めることにした。本校の所在地であるみよし市には、みよし市立中央図書館がある。市中央図書館の取組として、学校支援というものがある。学校支援の内容は、読み聞かせボランティア学習教室、授業支援、図書館運営の相談などを行う出前講座、貸出期間1か月で100冊まで図書資料を借りられる団体貸出、同じく貸出期間1か月でレファレンスを受けた図書資料を配送してもらえ学校配本がある。まずはそのうちの、出前講座を依頼し、本校図書館の運営の相談を行った。市中央図書

8月20日(火) 今日の授業で大切だと思ったことを書きましょう。次の時間はどんなことを学びたいか書きましょう。
 1. 楽しむことが一番大切というところが分かったから
これからの人生全力で楽しみたいと思ふ。

<資料2 生徒Aの第二時の振り返り>

④ 9月9日(月) 今日の授業で大切だと思ったことを書きましょう。次の時間はどんなことを学びたいか書きましょう。
 Aでは、孔子が「好きでいいこと、楽しいこと、本当の君子について話している。そのテーマが喜びに関することで一貫しており、孔子の人生ともリンクすると思った。孔子にとっては、勉強しつづけたことをやりやり果行することができるのは喜びで、同じ目標に向かっている友がいることは楽しいことなのだろうと感じた。自分の考えが受け入れられなかったからこそ、友のありがたみが分かったと思う。でも、自分は好きなものも好きでよかったとさめあや落ち込み自信がなくなってしまうから、まだまだ小人だと思った。

<資料3 生徒Bの第三時の振り返り>

④ 9月3日(月) 今日の授業で大切だと思ったことを書きましょう。次の時間はどんなことを学びたいか書きましょう。
 たまたま勉強するだけでいいし、勉強したことを、振り返り考えることが大切だと分かった。
 了して、自分を理解されなくても、常に道を楽しむことが大切であることが分かった。
僕は、自分で道を切りひらいて生きたいと思ふ。

<資料4 生徒Aの第三時の振り返り>

館から職員の方を招き、実際に図書館を視察していただいた。そこで判明したのが、情報の古い資料が山積していることだった。市内で一番新しい中学校である本校は、比較的図書資料の数は多かったのだが、新しいが故に捨てられる機会がなく、開校から18年が経過していた。開校当初は多かった生徒数も、ここ最近ではぐっと減少してきている。情報は更新していかなければならないことを改めて指導していただき、図書資料の廃棄に踏み切った。司書補助員の協力を得て、令和5年度だけで約3000冊を廃棄した。すると、図書館の棚にも余裕が生まれ、より手に取りやすい工夫をしながら配架することができた。(資料5)そしてその後、わずかではあるが、いただいた予算で『論語』に関する資料を購入した。



<資料5 図書資料廃棄後の本校図書館の様子>

それでも授業で活用するには圧倒的に図書資料の数が少なかった。そこで、市中央図書館の学校配本を利用した。貸してもらえる図書資料を選ぶ方法が二種類あり、市中央図書館がテーマを設定し、30冊程度で既にセットを組んである図書資料と、学校からテーマや内容を依頼して選定してもらった図書資料である。今回は、市中央図書館の配本セットの中にあつた「俳句・故事成語・論語」のセット(内『論語』に関する資料は15冊程度)(資料6)とそれ以外の『論語』に関する図書資料15冊程度を貸してもらうことになった。それに本校図書館にあつた3冊を加え、結果的に『論語』に関する図書資料を一学級分用意できた。焦点を当てている内容も、難易度も、対象年齢も異なる資料ではあつたが、授業時間内に一人一冊行き届くように用意ができた。(資料7)

(3) 自分の「心のよりどころとなる言葉」探し
【手立てウ・エ】

『論語』の学習を始める際に、単元を貫く課題として、「心のよりどころとなる言葉を『論語』の中から見つけよう」と設定した。事前に準備をしておいた、本校図書館の資料と市中央図書館の資料を合わせて生徒に提示した。生徒は、いつもとは違って図書室で学べることに加え、さまざまな資料があることに嬉しさを感じている様子だった。そこで3時間程度、ひたすら資料を読み、自分の心のよりどころとなりそうな『論語』の言葉を探すために、自分や資料と向き合う時間をとった。

この3時間は、自分で資料を見つけ、一人で読んで熟考したり、友達と対話したりしながら学ぶなど、必要に応じて学習する形態をとった。すると、「これってどういう意味?」「孔子かっこいい」「普段こういうことあつたな」と友達と対話しながら調べ学習をしている様子があつた。生徒Aは一人で黙々と小学生向けの資料を読み、生徒Bは教員や友達と対話しながら調べ学習を進めた。他の生徒もあえて小学生向けの資料を読むことで、『論語』の言葉をよりかみ砕いて理解することができ、自分の生活につなげて考えやすいようだった。

たくさん調べ学習を進めた中で、最後に、自分の「心のよりどころとなる言葉」をまとめた。それぞれが自分の言葉を決め始めると、次第に「先生、学習用タブレットを使ってもいいですか。」という声が多くなっ

セット番号	連番	中学校	『俳句・故事成語・論語』
中一⑦	1	図説孔子 生涯と思想	
中一⑦	2	ドラえもんはじめての論語	
中一⑦	3	ドラえもんはじめての論語	
中一⑦	4	身近な出来事でわかるはじめての論語(調べる学習百科)	
中一⑦	5	こども論語 敬きを温ねて新しきを知る(声に出して読みたい・こどもシリーズ)	
中一⑦	6	絵で見てわかるはじめての漢文 第4刷 論語	
中一⑦	7	絵で見てわかるはじめての漢文 第5刷 故事成語	
中一⑦	8	絵で見てわかるはじめての漢文 第4刷 漢文入門	
中一⑦	9	自分で考えて行動しよう!こども論語とそろばん	
中一⑦	10	子ども版声に出して読みたい日本語 補くえば鐘が鳴るなり	
中一⑦	11	子ども版声に出して読みたい日本語 朋有り遠方より来たる	
中一⑦	12	声に出して楽しもう古典の世界 漢文に親しもう	
中一⑦	13	声に出して楽しもう古典の世界 漢文に親しもう	
中一⑦	14	声に出して楽しもう古典の世界 漢文に親しもう	
中一⑦	15	こども論語塾 親子で楽しむ	
中一⑦	16	心をみがくことば論語(声に出して絵で楽しく学ぶはじめての論語と漢詩)	
中一⑦	17	時をこえるうた漢詩(声に出して絵で楽しく学ぶはじめての論語と漢詩)	
中一⑦	18	声に出して楽しもう俳句・短歌 俳句に親しもう	
中一⑦	19	声に出して楽しもう俳句・短歌 俳句・短歌をつくろう	
中一⑦	20	声に出して楽しもう俳句・短歌 俳句・短歌をつくろう	
中一⑦	21	声に出して楽しもう俳句・短歌 俳句に親しもう	
中一⑦	22	子どもおもしろ歳時記 俳句づくりに!	
中一⑦	23	大人も読みたいこども歳時記 作ってみよう365日	
中一⑦	24	写真で読み解く俳句・短歌・歳時記大辞典	
中一⑦	25	写真で読み解く故事成語大辞典	
中一⑦	26	知っておきたい教科書に出てくる故事成語 生きかたを考える言葉	
中一⑦	27	知っておきたい教科書に出てくる故事成語 生きかたを考える言葉	
中一⑦	28	知っておきたい教科書に出てくる故事成語 学びを深める言葉	
中一⑦	29	知っておきたい教科書に出てくる故事成語 歴史から生まれた言葉	
中一⑦	30	こども故事成語 怒髪天を衝く(声に出して読みたい・こどもシリーズ)	
中一⑦	31	超訳!こども名著塾 あの古典のことばがよくわかる! (論語)孔子(老子)老子	
中一⑦	32	超訳!こども名著塾 あの古典のことばがよくわかる! (論語)孔子(老子)老子	
中一⑦	33	絵で見てわかるはじめての漢文 第5刷 漢詩	
中一⑦	34	和歌文学の基礎知識	
中一⑦	35	和歌とは何か	
中一⑦	36	和歌とは何か	

<資料6 『論語』を含む配本セット一覧>



<資料7 実際に市中央図書館から借りた資料>

5 成果と課題

(1) 成果について

仮説1に対する手立てに関わって、何度も音読を繰り返し、その後孔子の伝えたかった思いを考えるうえで心に残った言葉を見つけ、自分の考えをノートに書かせた。そうやって、個の意見を確立してから、生徒同士で聴き合いを行った。取り上げる言葉を心に残った言葉とすることで、漢文を苦手としている生徒も自分の感じたこととして捉えて授業に参加することができた。そしてそのことが、最終的に『論語』の言葉と自分の生活とをつなげて考えることにつながっていった。

また、聴き合い活動では、「例えば?」「それってどういうこと?」と問いかけるよう意図的に仕掛けることで、学級全体ではまだハードルの高い生徒も、ペアやグループでは根拠をもって聴き合うことができるようになってきている。

仮説2に対する手立てに関わって、市中央図書館の学校配本を利用して、一人一冊行き渡るように、難易度の異なる同じテーマの本を複数冊用意した。そのことによって、自分たちで違いを見つけたり、自分により合った資料を見つけたりできた。それぞれの『論語』の取り扱い方、対象年齢が異なることによって、さまざまな視点に気付いたり、生徒同士で「そっちの本はどう?」と対話が生まれたりして、参考にする資料が違うからこそ『論語』に対してもっと知りたいと能動的に学習ができた。また、必要に応じて学び方を変える学習の形態をとることで、自然と「例えば…」とか「あなただったら、これがいいんじゃない?」など、自分や相手のことを話題にしながら『論語』について対話したり、十分に考えたりして、『論語』と今の自分と向き合うことができた。このように活動することで、自分の考え方や生き方を見つめ直すことができた。

孔子の言っていることは一貫していた。例えば、私たちが
班は「自分の考え」について語っていることが共通していた。
もちろん、自分の考えをどうするかは自分で答え一つじゃな
いけど、その考えの明確な答えがそこにあるんだと思っ
た。自分の考えと他のことを理由にしてあきらめてはいけ
ない。自分以外の人の自分の考えは意見は押しつけてはいけ
ない。おたがひのことを知った(要約して)。

<資料10 生徒Bの最後の振り返り>

生徒A：私は、とくにやりすぎていることはないが、足りないことが多いことが分かったの
で、もうすこし頑張ってみようと思った。

生徒B：この『論語』を選んだのは、流されたことで本心を隠すことになったり、負い目を感じて生きるのが嫌だからです。(中略) 自分の考えも大切にして、常に正しい選択ができるようにしたいです。

今後も、学校図書館として同じ本を複数冊購入することは難しいが、市中央図書館に協力していただきながら同じテーマの本を複数冊使用することは効果的だろうと考えられる。また、今回の実践では、図書資料は幅広く調べるときに使い、学習用タブレットはある一つの物事に絞って調べるときに使うことが、生徒の探している情報を得るのに効果的だった。

(2) 課題について

仮説1に対する手立てに関わって、今回、『論語』について生徒は懸命に考える姿があったが、やはり「漢文は難しい…」という声は少なくなかった。心に残った言葉を取り上げるためにも、漢文を読む基礎的な知識や技能を確実に身に付けさせる必要性を感じた。

仮説2に対する手立てに関わって、やはり、学校図書館だけでは、現代の授業に合った図書資料を豊富に用意できるとは言いがたい。当面の間は、市中央図書館の支援を受けながら、授業で活用できる資料をそろえていく必要がある。また、学習用タブレットを使用できる今、図書資料と学習用タブレットそれぞれの利点を生かしながら、どのように併用していくか、そして、学校図書館を「学びに使える学校図書館」＝「学習・情報センター」としてどのように整備・活用していくかを考えていく必要がある。